

第4回 市川の文化人展

# 地域文化に光を灯した二人

彫刻家・藤野天光 \* 音楽家・村上正治

## 藤野天光 彫刻展

2003年 2月15日(土)～23日(日)  
午前10時～午後6時 18日(火)は休館

市川市文化会館 展示室

## 村上正治記念コンサート

2月23日(日) 午後2時～4時30分

市川市文化会館 大ホール

主催

市川市芸術文化団体協議会 市川市



芸術文化振興基金助成事業



## ごあいさつ

市川市では、本市にゆかりの文化人、芸術家の功績を広く紹介することで、魅力ある市川を再発見してもらいたいと考え、平成11年度より「市川の文化人展」を開催しています。

今回は、彫刻家の藤野天光氏と音楽家の村上正治氏を紹介します。

藤野氏は、独自の彫刻観をもって、文展・日展などに大作を連続して出品し、日本芸術院賞をはじめ各賞を受賞されました。その一方、千葉県、群馬県の美術会、日本彫刻会の結成や千葉県立美術館の建設などに中心的役割を果たされました。

村上氏は、市川交響楽団協회를全国でも有数のアマチュア音楽団体に成長させ、全国各地で音楽の普及活動を推進してこられました。

このようにお二人は、ご自身の芸術活動に努めるかたわら、地域の芸術文化の向上に寄与してきた功績は極めて大きいものがあります。

今回は、お二人がその発足に力を尽くした市川市芸術文化団体協議会と協力して開催いたします。この機会に一人でも多くの方に、お二人の作品をご鑑賞いただけましたら幸いです。

最後になりましたが、開催にあたり多大なるご協力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

市川市長 千葉光行

---

## 第4回〈市川の文化人展〉開催にあたって

---

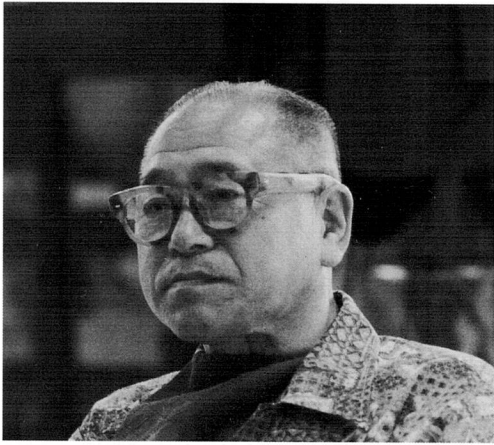
今回は「地域文化に光を灯した二人」を主題に、藤野天光、村上正治のお二人に光をあてることとしました。藤野さんは彫刻家として木彫、ブロンズなどを中心に戦前、戦後にかけて数多くの大作を制作し、日本の彫刻界をリードした一人です。村上さんは音楽教師として教壇に立つかたわら作曲も手がけ、市川をはじめ全国の人びとにクラシック音楽の美しさ、良さを説き、その普及に献身してきました。

お二人は、ともに市川に住み、戦後の荒廃したなかで、美術や音楽を通して人びとの心に明るい灯をともしようと文化活動に専念しました。村上さんが当時一流の音楽家を招いて音楽会を開

くとその周囲には、かならず市川在住の著名な美術家の作品が飾られるというように、美術と音楽という文化の核を融合させ、生活は決して豊かではなかった時代に、文化の香りを高めていきました。

これが市川の文化運動の原点で、藤野さんは千葉県や市川市の美術会を結成し、市川市の図書館の創設、文化財の保護にも力を尽くしました。一方、村上さんは「市響」の名で親しまれている市川交響楽団などを結成し、音楽活動に専念してきました。二人の理想は芸術文化団体協議会へと結実するのですが、その足跡を作品展や演奏会で紹介してみました。





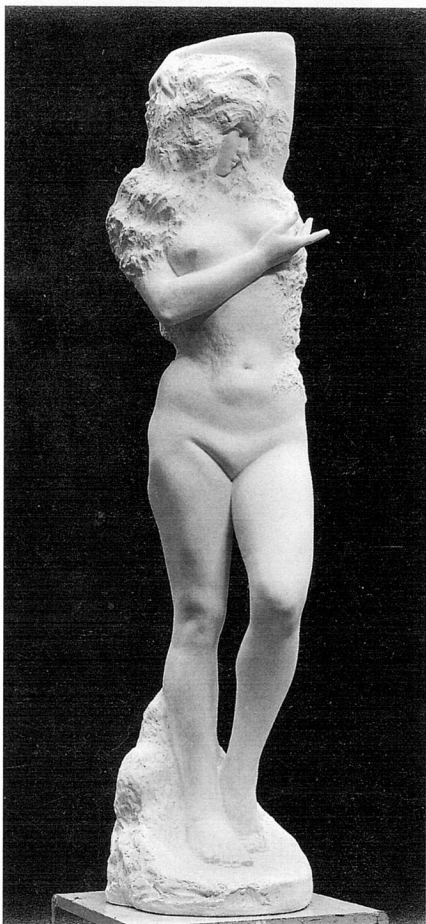
## 藤野天光

プロフィール

1903年、群馬県館林市に生まれる。東京美術学校（現在の東京芸術大学美術学部）彫塑部に入学して北村西望に師事した。早くから頭角を現し、男性の力強さをモチーフとした「鉄工」を文展鑑査展に出品して推奨を受け、第2回新文展では「銃後工場の護り」が特選に選ばれた。この作品はニューヨークで開かれた万国博覧会に出品され、注目を集めた。

戦後になると、平和国家の建設には<文化>が第一と提唱し、市川在住の学者、文化人、財界人に呼びかけて<市川文化会>を結成、文化運動の火の手をあげた。以降、村上正治との交流がはじまり村上の音楽活動を全面的に応援した。制作活動も活発で、日展に出品の「ああ青春」が文部大臣賞、「光は大空より」で日本芸術院賞を受賞し、その間、北村西望作の長崎の「平和記念像」の筆頭助手をつとめるなど、数多く作品を残している。日展審査員を6回、さらに理事をつとめる一方、千葉県文化財専門委員として、文化財の保護にも積極的だった。

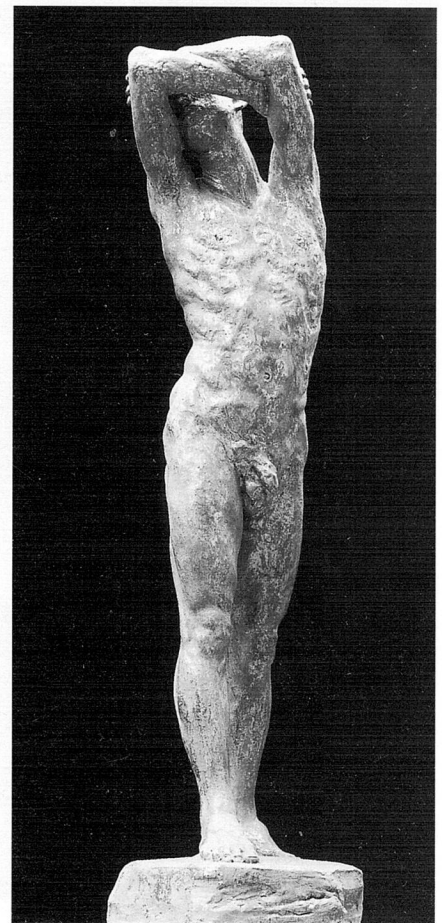
そのほか、日本彫刻家連盟、千葉県美術会、市川美術会、市川芸術文化団体協議会などの結成と運営にあたるなどしたが、1974年12月30日急逝した。のちに勲三等瑞宝章を贈られた。



恋知るころ 1968



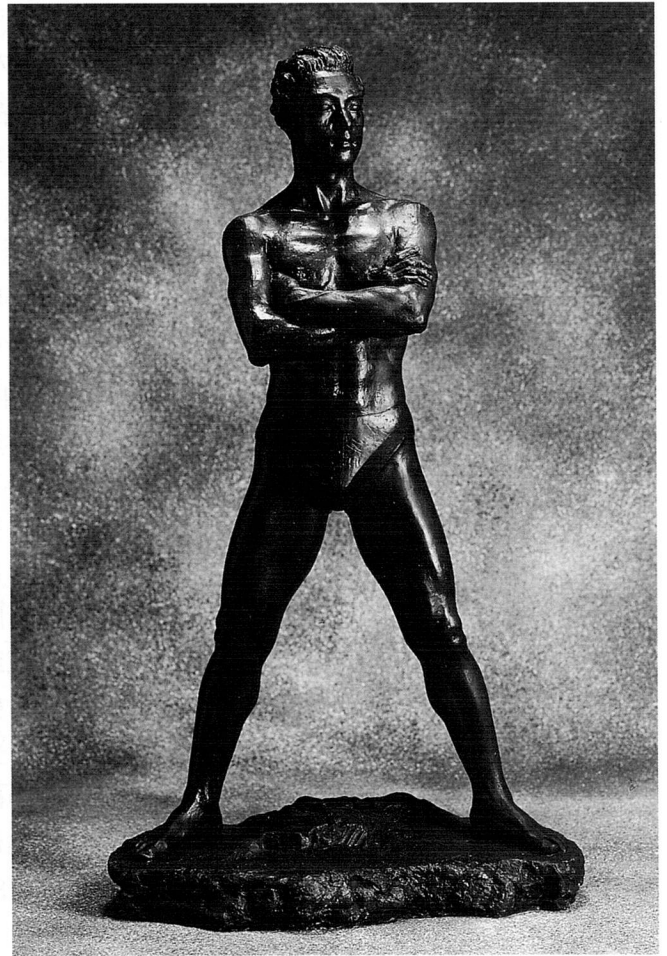
光は大空より 1965



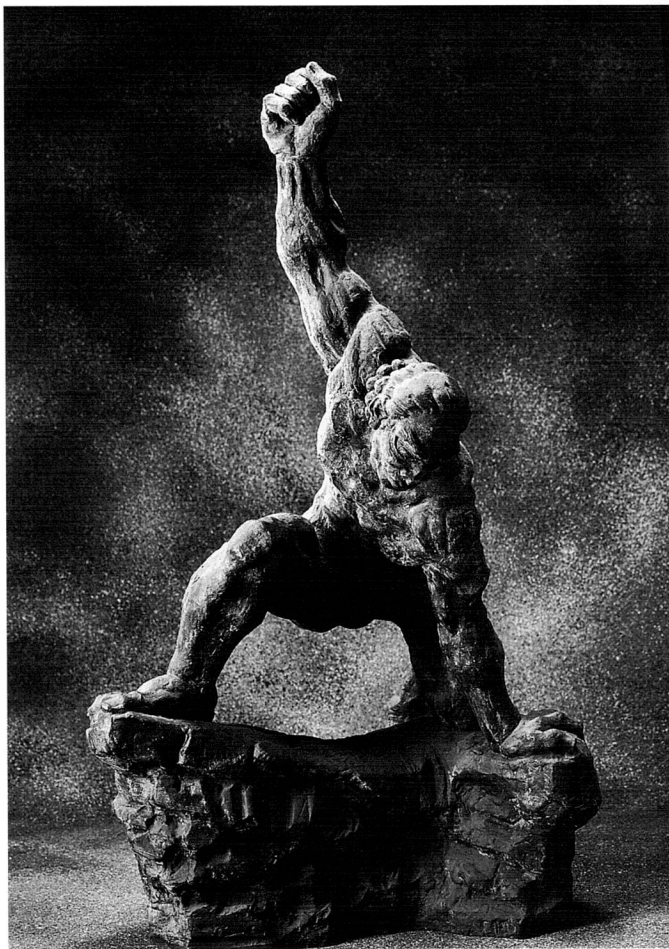
あゝ青春 1962



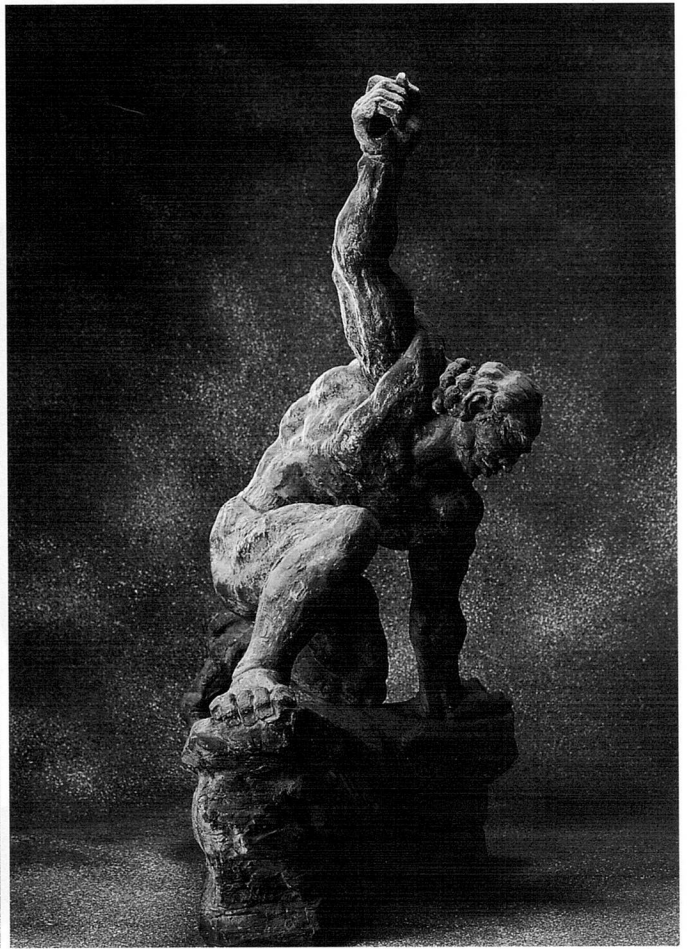
鉄工 (1936)



玄潮 (1948)

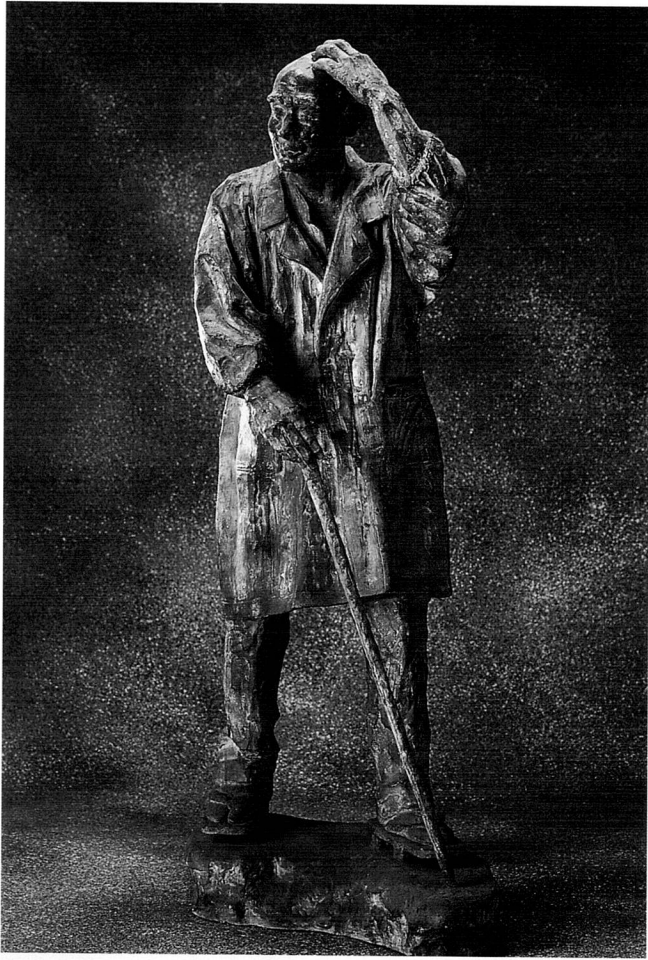


天籟 (1958) 正面

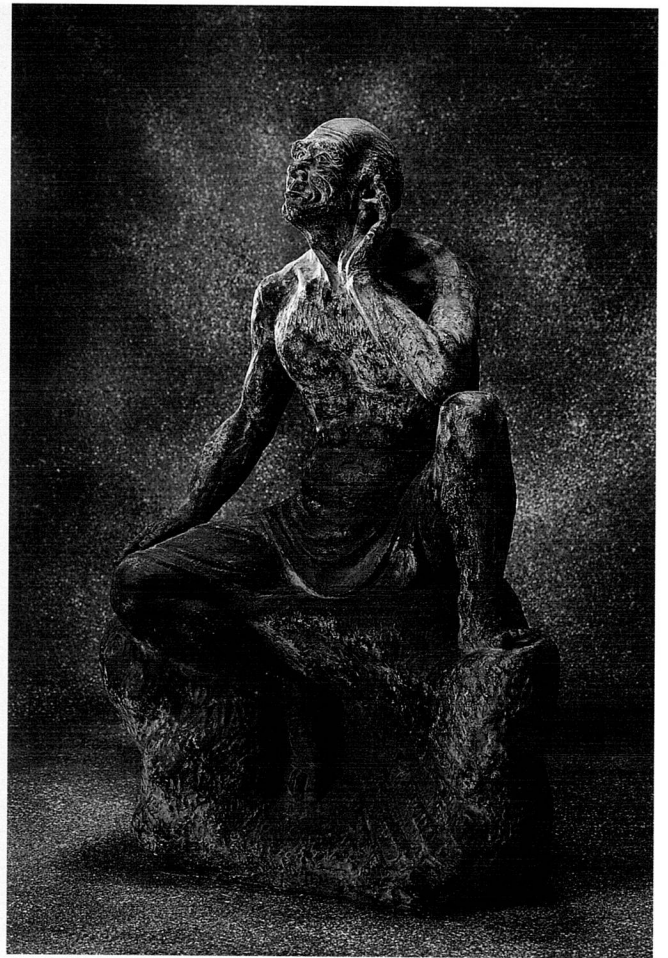


天籟 (1958) 側面

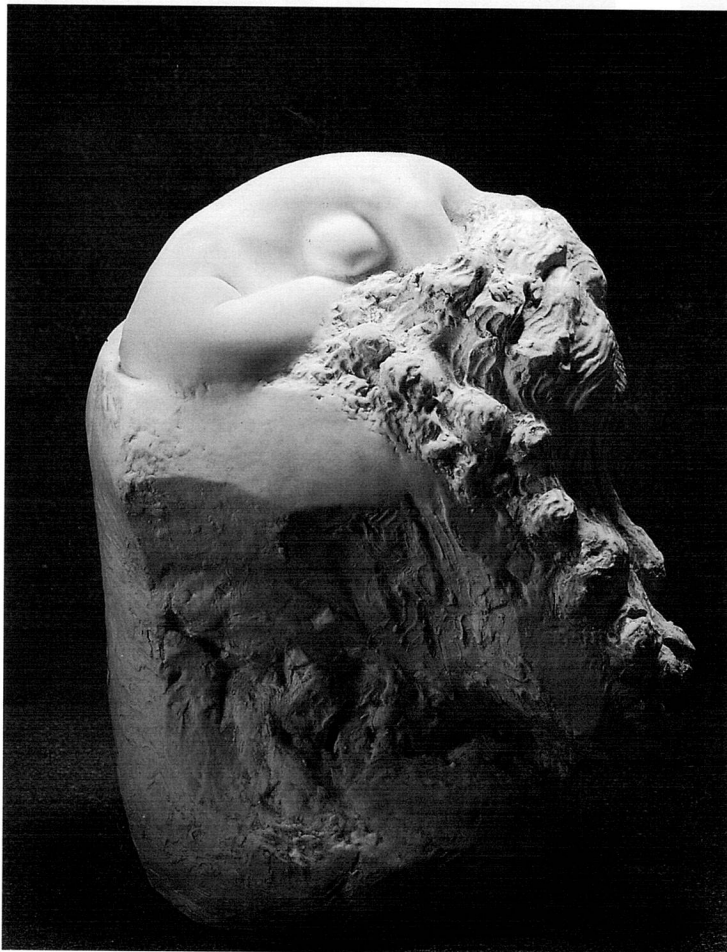




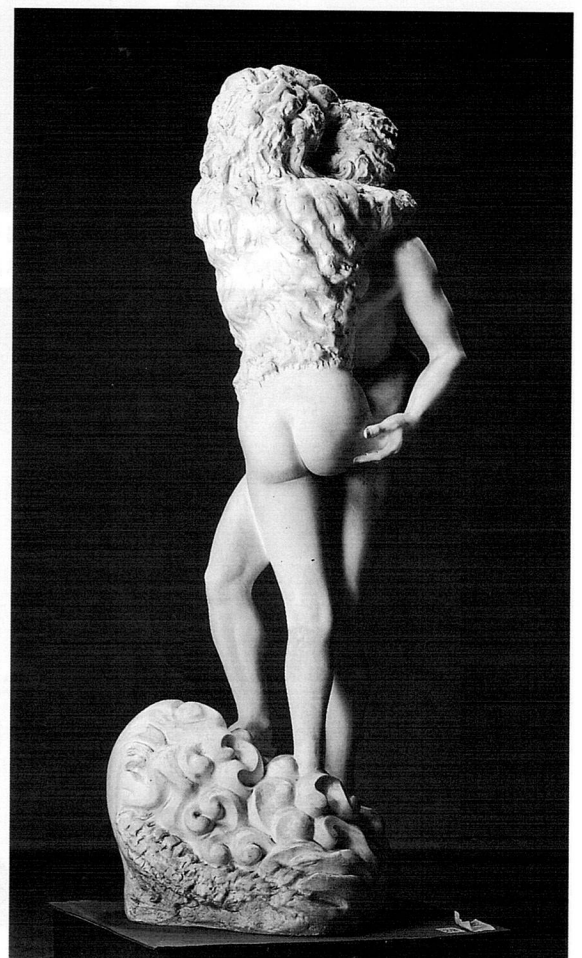
心眼 (1961)



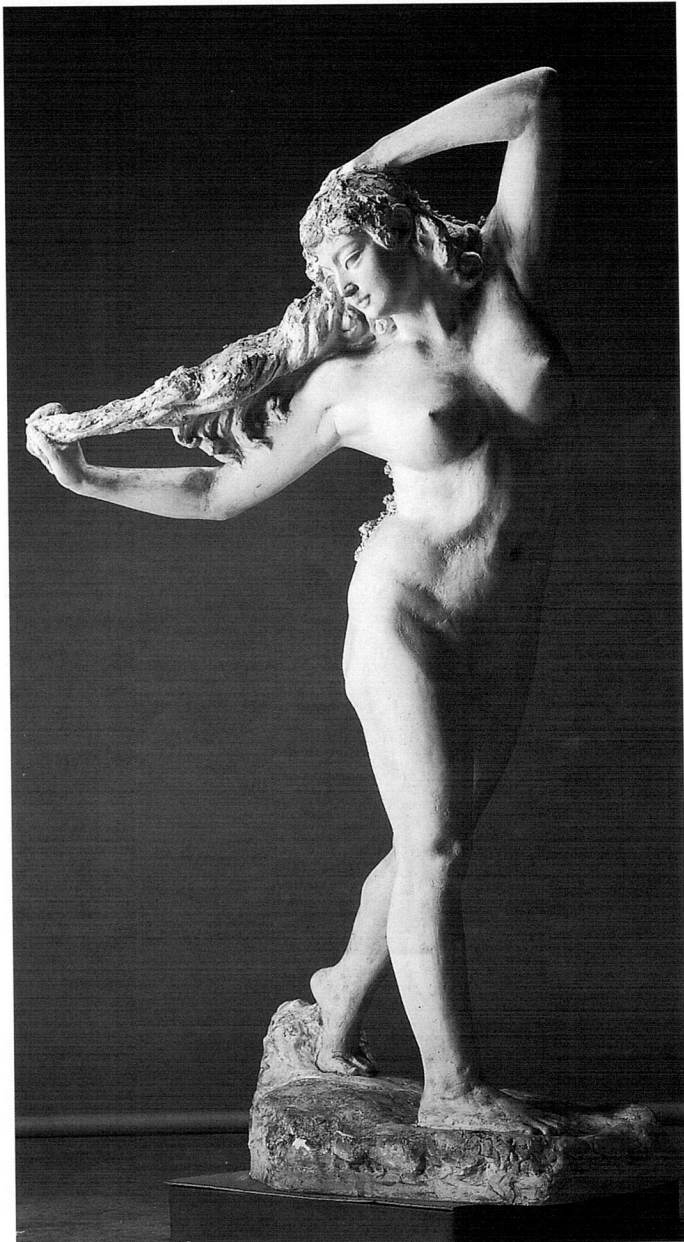
月と語る (1964)



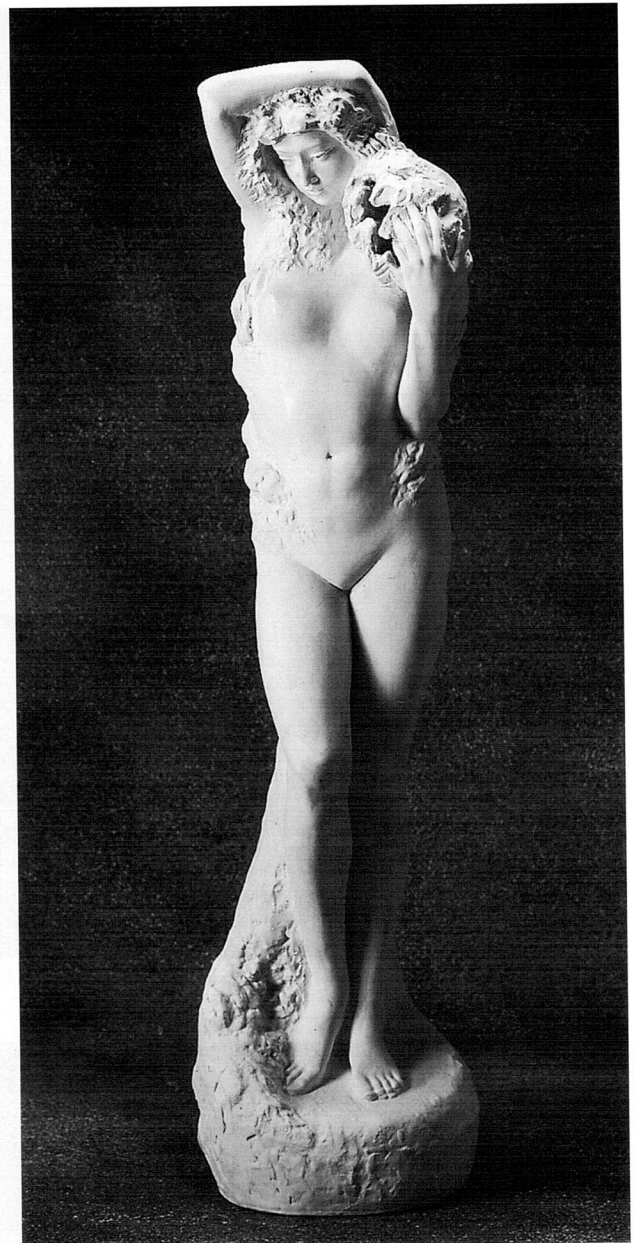
若き日のかなしみ (1969)



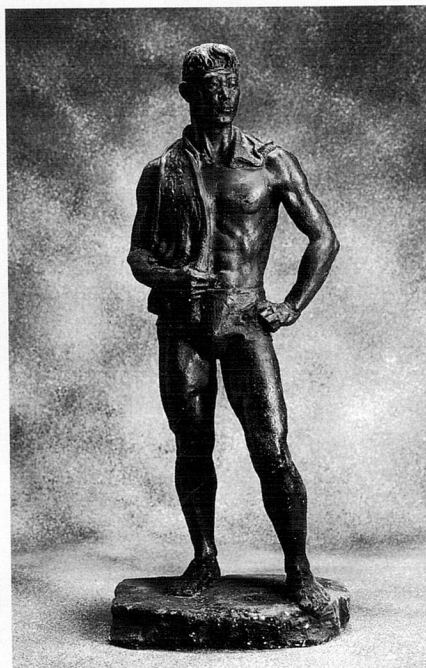
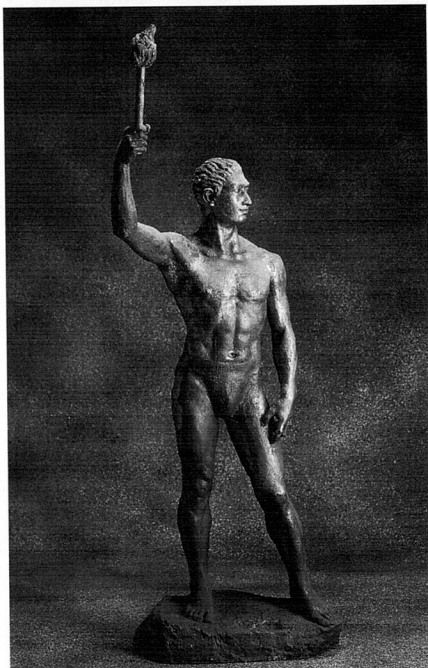
和 (1974)



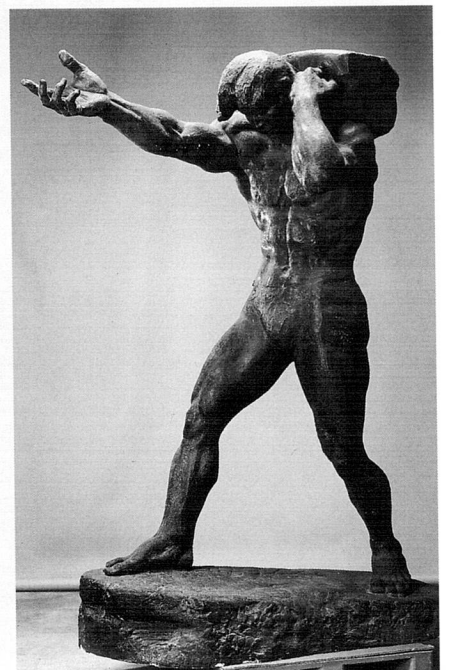
新立 (1951)



新泉 (1971)



古橋選手の像 (1949)

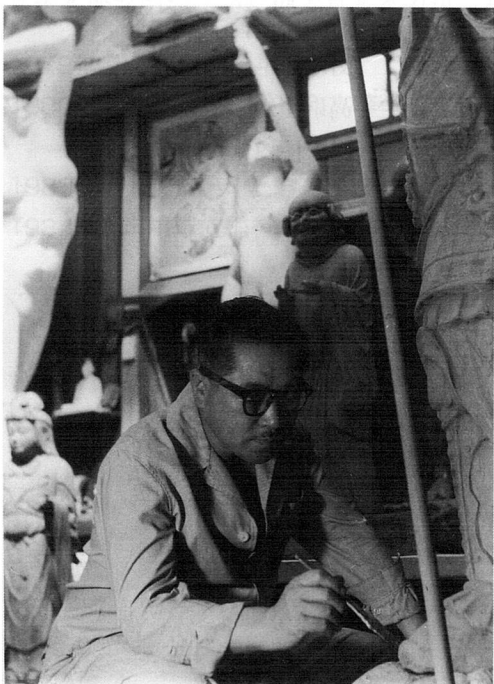


人生 (1959)





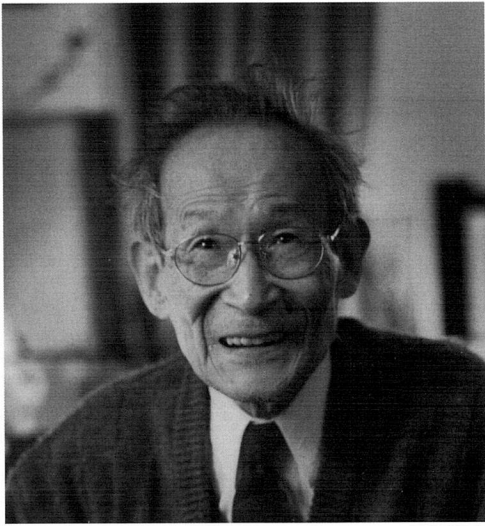
神話 (1963)



アトリエにて

### 出品目録

作品名	制作年	作品歴	材質
1. 首 木彫	1928 (昭和3) 年		木彫
2. ベレー帽	1928 (昭和3) 年		石膏
3. ときのながれ	1929 (昭和4) 年	10回帝展	石膏
4. 夢	1934 (昭和9) 年		石膏
5. 鉄工	1936 (昭和11) 年	文展	ブロンズ
6. 男首(国府台君)	1936 (昭和11) 年		石膏
7. 銃後工場の護り	1938 (昭和13) 年	2回文展	石膏
8. 大空	1939 (昭和14) 年	3回文展	石膏
9. 父にまさる	1940 (昭和15) 年	4回文展	ブロンズ
10. 玄潮	1948 (昭和23) 年	4回日展	ブロンズ
11. 古橋選手の像	1949 (昭和24) 年	5回日展	石膏
12. 感激	1952 (昭和27) 年	8回日展	石膏
13. 少女(高世ちゃん)	1954 (昭和29) 年		石膏
14. ターバン	1956 (昭和31) 年		石膏
15. 天籟	1958 (昭和33) 年	1回日展	石膏
16. 人生	1959 (昭和34) 年	2回日展	石膏
17. 心眼	1961 (昭和36) 年	4回日展	石膏
18. ひげの老人	1961 (昭和36) 年		石膏
19. ああ青春	1962 (昭和37) 年	5回日展	石膏
20. 月と語る	1964 (昭和39) 年	7回日展	石膏
21. 光は大空より	1965 (昭和40) 年	8回日展	石膏
22. 星和	1966 (昭和41) 年	9回日展	石膏
23. 浮谷竹次郎像	1967 (昭和42) 年		石膏
24. 恋知る頃	1968 (昭和43) 年	16回日展	石膏
25. 若き日のかなしみ	1969 (昭和44) 年	改組1回日展	石膏
26. 若き日のかなしみ	1969 (昭和44) 年		ブロンズ
27. 長寿神像	1971 (昭和46) 年	3回日展	石膏
28. 新泉	1971 (昭和46) 年	2回日展	ブロンズ
29. 市立中国分小学校校章	1972 (昭和47) 年		木彫
30. 輝く太陽	1973 (昭和48) 年	28回国体コミケ外	石膏
31. よくかんがえる	1973 (昭和48) 年	5回日展	ブロンズ
32. 和	1974 (昭和49) 年	6回日展	石膏
33. もの思うころ	1974 (昭和49) 年	4回日展	石膏
34. 青年	制作年不詳		石膏
35. つぼを持つ女(立像)	制作年不詳		石膏
36. 猩猩	制作年不詳		木彫
37. 裸婦臥像	制作年不詳		石膏
38. 見上げる女	制作年不詳		石膏
39. 老人	制作年不詳		石膏
40. 三面大黒天	制作年不詳		木彫



## 村上正治

プロフィール

1914年、新潟県岩船郡村上町に生まれる。クリスチャンだった父に従い明治学院に入り中学部から高等商業部に進んだが、音楽への道をあきらめきれず、東京高等音楽学院（現在の国立音楽大学）予科に入学、作曲法などを学んだ。卒業後、市川に移り、小学校などの教壇に立っていたが、戦後になって、日本に平和国家が誕生すると、これからの若い人たちの教育に必要なのは音楽と考へ、クラシック音楽の啓蒙に乗り出そうとしていた。そこに現れたのが彫刻家の藤野天光である。

藤野は村上の考へを知ると積極的に応援した。村上は、藤本真理、安川加寿子、中山梯一など、当時一流の音楽家を招いては演奏会を開いていた。小学校の講堂という小さな開場ではあったが、必ず、周囲に絵画や彫刻といった美術作品が飾られ、音楽と美術とが融合して独特の雰囲気盛り上げていた。レコードコンサートも毎月のように行われていたという。

ここから多くの演奏家が生まれ、やがて市川交響楽団の結成へと進んでいく。声楽を愛する人が集い合唱団も誕生した。村上のまいた<一粒の麦>は、着実に育ち、いまや日本各地に芸術文化団体の結成を見るといふ大きなうねりとなって広がっている。こうした努力に、市川市は、市民栄誉賞を贈った。勲四等瑞宝章も受章している。

## 村上正治作品名

- 1935年 ピアノ曲「子供の為の三つの舞曲」  
メヌエット・マズルカ・ワルツ
- 1938年 ピアノ曲「フーガ」
- 1941年 ピアノ三重奏曲
- 1942年 歌曲「皇穹の護り」 作詩 碓井次郎  
女性合唱曲「祈り」 作詩 村上照恵
- 1942年 バリトン歌曲 遺書より「小鳥」 作詩 西村峻三
- 1947年 バリトン歌曲「光」 作詩 大江満雄
- 1948年 オーケストラ曲 グリーク「ピアノ曲集」編曲
- 1963年 NET番組（現テレビ朝日）「歌の絵本」テーマソング 作詩 村上照恵  
この番組の音楽編曲及び作曲を半年行う。
- 1964年 オーケストラ曲「キャンプの夜」
- 1966年 ピアノ曲「乗泉寺」
- 1984年 吹奏楽曲「喜びの歌」編曲「ファンファーレ」（市川市制50周年記念用）  
ソプラノ歌曲レクイエム「逝きし父を想う」 作詩 古賀加奈子
- 1995年 歌曲「友情の輪」 作詩 高橋國雄



## 村上正治校歌・社歌集等

- 1946年 行徳町立行徳中学校 作詩 福田行有  
1948年 江戸川区立篠崎中学校 作詩 浄園満成  
1949年 市川市立第三中学校 作詩 菊地猶喜  
千葉県立市川工業高等学校 作詩 高梨義雄  
1950年 市川市立第一中学校(合唱・オーケストラ・吹奏楽) 作詩 野上 彰  
市川市立第一中学校応援歌(吹奏楽)  
1952年 千葉県立国府台高等学校校歌編曲(四部合唱曲・吹奏楽)  
1953年 市川准看護婦学校 作詩 鈴木信子  
1955年 沼田千草学院(オーケストラ) 作詩 櫛淵静一  
1955年 市川市立稲荷木小学校 作詩 菊地猶喜  
1956年 船橋市立宮本中学校(四部合唱曲) 作詩 神原克重  
1958年 船橋市立二宮中学校生徒会の歌(吹奏楽)  
1959年 山崎製パン株式会社社歌(オーケストラ) 作詩 野上 彰  
千葉県立四街道高等学校 作詩 松本千代二  
1965年 千葉県立茂原工業高等学校 作詩 野上 彰  
1967年 光町立東陽小学校 作詩 伊橋虎雄  
1968年 御宿町立御宿小学校校歌編曲(オーケストラ)  
1968年 市川市立宮久保小学校 作詩 榎本和子  
1969年 市川市立中国分小学校 作詩 阪田寛夫  
1970年 八千代市立米本南小学校 作詩 阪田寛夫  
1974年 八千代市立勝田台小学校(オーケストラ) 作詩 阪田寛夫  
1978年 青玄会の歌 作詩 小暮青風  
浦安町立堀江中学校(四部合唱・吹奏楽) 作詩 蜂谷泰広  
1979年 市川市立柏井小学校 作詩 能村登四郎  
1980年 千葉県立船橋二和高等学校(四部合唱・吹奏楽) 作詩 石堂晃信  
市川市立福栄中学校(四部合唱・吹奏楽) 作詩 能村登四郎  
1983年 千葉市第一ときわクラブの歌 作詩 菅野竹次  
1984年 市川市立稲荷木幼稚園園歌 作詩 奥沢泰子

その他、オーケストラ、吹奏楽、合唱用の編曲数十曲

第1部 村上正治作品集

14:00

合唱曲

「祈り」 作詞：村上照恵

「小鳥」 作詞：西村皎三

「光」 作詞：大江満雄

指揮 山崎 滋

ピアノ 鈴木珠美

合唱 市川混声合唱団 行徳混声合唱団

校歌

市川市立柏井小学校 作詞：能村登四郎  
(指揮：久保淳子 伴奏：門田厚実)

市川市立中国分小学校 作詞：阪田寛夫  
(指揮：小林悦子 伴奏：山あずさ)

市川市立稻荷木小学校 作詞：菊地猶喜  
(指揮：上田紀代美 伴奏：高橋花奈)

市川市立第一中学校 作詞：野上 彰  
(指揮：松崎穂子)

千葉県立市川工業高等学校 作詞：高梨義雄  
(指揮：廣瀬大悟 伴奏：柴田智枝)

休憩

第2部 村上正治の愛した曲

15:20

ヘンデル作曲 オラトリオ「メサイア」(抜粋)

指揮 山崎 滋

ソプラノ 西野 薫 アルト 野村陽子

テノール 島津 勲 バリトン 藪西正道

チェンバロ 渡辺玲子 オルガン 鈴木珠美

合唱指揮 田中安茂

練習ピアニスト 鈴木珠美 島内亜津子

オーケストラ 市川交響楽団

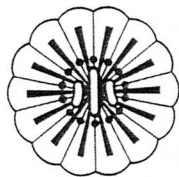
合唱 市川市合唱連盟

総司会 市川市合唱連盟理事長 近藤明子



## 出演校紹介

### 市川市立柏井小学校



柏井小学校は市川市の北東、柏井町の高台にあります。鎌ヶ谷市や船橋市とも隣接していて、周囲には「市川梨」で有名な梨畑が広がり、豊かな自然に恵まれた中にあります。校歌を作詞された能村登四郎先生は、八幡在住の日本でも有数の俳人で、柏井のあたりを歩き、この梨を題材にしなが、子どもたちの学ぶ姿がいまきと、体もたくましく鍛え、しかも、のびのびとした心をもってすごしてほしいと願って、作られたと聞いております。

学校の南側には貝塚があります。姥山貝塚といって現在、国の史跡に指定されていますが、太古のむかし、縄文人が生活していたところ。こうした古い歴史を持つ姥山の台地には、春になると梨が真っ白な花を咲かせ、夏には青く澄んだ空に白い雲が湧き上がってくる。秋はみのり。四季折々にあざやかな変化を見せる台地で、子どもたちは、今日も明るく元気に、校歌を歌いながら毎日をすごしています。

### 市川市立中国分小学校



中国分は市川市の北、国分の台地の東にあります。むかし、旧陸軍の練習場だったところで、いまは住宅地となり、その一角にあるのが中国分小学校です。開校当時、校庭は関東ロー層の赤土がむきだしのまま、少し風が吹くと、教室内は土ボコリでいっぱいになる。見かねた父母が、家庭の木を一本一本持ち寄り、校庭の周囲に植えたのです。この樹木が大きくなり、30年をすぎたいま、市川市内でも有数の緑豊かな学校といわれるようになっています。

谷を隔てた向こう側には、むかし縄文人が生活していたという堀之内貝塚があり、そこには市川市の考古博物館や歴史博物館があります。小塚山市民の森などもあって緑も多く、作詞された阪田寛夫先生は、このあたりを歩き、この校歌を作曲されました。阪田先生は芥川賞作家で、多くの人に歌われている童謡を数多く手がけており、子どもたちは大切な宝のようにしながら、毎日のように歌っています。また校章は藤野天光先生の作で、下総国分寺の鬼瓦をデザインしたものです。

### 市川市立稲荷木小学校



稲荷木小学校は、旧行徳町にあった行徳尋常高等小学校の分教場として発足した歴史のある学校です。その後、行徳町が市川市に合併され、昭和31年4月に市川市立稲荷木小学校として新しくスタートしたのです。学校の南西を江戸川が流れ、いまはこうした風景を目にすることはできませんが、その当時、あたりには田や畑が広がっていて、梨畑もあり、校章は、春になると一面に咲く白い梨の花を図案化したものです。

作詞の菊地猶喜先生は当時、第三中学校の国語と書道の教師で、初代校長の宇津木勇先生とは旧知の間柄、作曲家の村上正治先生と宇津木先生とは、新生の市川小学校以来の親友で、こうしたことから、この校歌が生まれました。

とくに宇津木先生は、村上先生が市川交響楽団結成に向けて情熱を傾けているとき、藤野天光先生とともに私財をなげうって応援を惜しまなかった人で、稲荷木小学校が、わずか7人でスタートしたときも、先頭に立って学校建設に尽くしたといわれています。

### 市川市立第一中学校



昭和22年に発足した新学制によって開校し、今年、55年を迎えました。校歌にもあるように、江戸川の流れを望む国府台の高台に位置し、万葉の歴史を秘めた手児奈霊堂をはじめ、里見公園、じゅん菜池緑地などの自然環境に恵まれ、周辺には公立、私立の高等学校が3校、大学が3校、さらに国立豊学校があり、文教学園都市を形成しています。

校内には樹齢300年といわれる榎の巨木が聳え、シンボルとして一中生の歩みを見守っています。これにちなんで文化祭も「榎祭」と名付け、先輩方の伝統を守りながら毎年、盛大に行っています。

その基礎となるのが校歌です。野上彰先生は、四季を通した国府台の自然の風景を折り込み、若き花々に託した生徒像を描きながら、社会に役立つ人物になって欲しいという願いを込めて作詞されました。当時、一中の音楽教師だった村上正治先生は、これに応え、すばらしい四部合唱の曲を作ってくださいました。

先輩方も、なにかにつけて口づさんでいると聞いていますが、いまも、むかしと変わらず四部合唱のアカペラで合唱しており、この校歌を私たちは一中生の誇りとしています。

### 千葉県立市川工業高等学校



千葉県立市川工業高等学校には、機械科・電気科・建築科・インテリア科の4科があり、それぞれの分野において将来の工業技術者をめざす生徒が学習する専門高校です。また、非常に歴史と伝統があり、今年度で創立60周年を迎えました。これまでに1万5000人あまりの先輩が卒業し、優秀な技術者として社会に貢献しています。

現在の私達の生活は、工業技術で造られたたくさんの「もの」に支えられています。これらの「人」の生活に必要な「ものづくり」を学ぶことを基本としています。授業は知識だけの教育にとどまらず、実験・実習を中心とし、体験に基づいて「ものづくり」に関する知識・技術・技能を習得します。また、さまざまな資格等を取得し、将来の社会人として必要な実践的・基本的能力を身につけることができます。

生徒は非常に明るく、全員がそれぞれの技術を学ぶという目的意識をしっかりと持って生活しています。コンクールなどで数々の賞をいただいています。また、生徒会活動の中の市工祭文化の部では毎年、生徒がデザインした「アーチ」を制作することが伝統となっています。各科の特色を活かした展示発表などもあり、非常に多

## 出演者プロフィール



### ●指揮 山崎 滋

東京生まれ。8歳よりピアノを始め、東京芸術大学指揮科に入学。指揮を金子登、佐藤功太郎両氏に師事。また、ピアノを村山信子、竹尾聡子、ヴァイオリンを山岡箏笹、スコアリーディングをH・ピュイング・ロジェ、チェンバロをD・ヘルマン諸氏に師事。在学中より二期会オペラの合唱指導・副指揮者として活動を始め、若杉弘、小澤征爾氏等のアシスタントを務める。また、オペラ研究生スタジオの講師として後進の指導にあたる。バロック音楽にも造詣が深く、手兵であるマタイ研究会管弦楽団・同合唱団を指揮したCD『バッハ・マタイ受難曲』全曲が発表され注目を集めた。

日本合唱協会第104回定期演奏会「フランス音楽の夕べ」でデビュー。1996年バイロイト音楽祭に派遣され、ノルベルト・バラッチ氏に合唱指導を師事。その後、新国立劇場開場記念公演「ローエングリン」では同氏のアシスタントおよび副指揮を務める。2000年4月より新国立劇場（オペラハウス）専属となり現在に至る。

日本指揮者協会会員。

### ●ソプラノ 西野 薫



東京芸術大学卒、同大学院修士課程修了後、1989～1991年までイタリアに留学。卒業時、成績優秀者として読売新人演奏会出演。NHK新人洋楽オーディション合格、日本モーツァルト音楽コンクール第1位。日本声楽コンクール第2位及び田中路子賞受賞。奏楽堂日本歌曲コンクール第2位。

帰国後、オペラでは二期会の「ドン・ジョヴァンニ」「コシ・ファン・トゥッテ」「シンデレラ」新国立劇場では「ヘンゼルとグレーテル」藝大新奏楽堂オープニングオペラ「魔笛」「奥様女中」「電話」「愛の妙薬」「夢遊病の女」など数多く出演する。

コンサートでは、「モーツァルトのレクイエム」「フォーレのレクイエム」「戴冠ミサ」「マーラーの第4番」「ニールセンの交響曲エスパンスィブ」「メサイア」「第九」「口短調のミサ」「ドイツレクイエム」等を東京フィルハーモニー、日本フィルハーモニー、ハンガリー国立フィルハーモニー、チェコフィル、新日本フィルハーモニー、九州交響楽団、アンサンブル金沢、ニューフィル千葉、関西フィル等とも多数共演する。

現在、二期会会員 日本声楽アカデミー会員 日本演奏連盟会員。

### ●アルト 野村陽子



女子学院卒業、東京芸術大学声楽科卒業。畑中更子、平原寿恵子の諸氏に師事。1971年ベルリン音楽大学入学。田中路子、イルムガルト・ハルトマン・ドレッシングの両氏に師事。翌年同大学オペラ科公演のモーツァルト作曲「コシ・ファン・トゥッテ」のドラペラを歌い、又演奏会ではシューベルト、シューマン、ブラームス、ヴォルフ、ピッツナー、マーラー等の歌曲を歌い幅広く活躍。1975年3月同大学を首席で卒業。

ベルリン・ドイツ・オペラ劇場の専属歌手として数々の著名な指揮者のもとでヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、モーツァルト、R・シュトラウス等20演目以上のオペラに出演する一方、ヨーロッパ各地やアメリカの歌劇場に客演。

1987年の同オペラ劇場日本公演でワーグナー作曲「ニーベルングの指輪」より「ワルキューレ」のジークルーネを歌う。1989年帰国、以来、数々のオペラ・オラトリオに出演する一方、ドイツリートや邦人作品の演奏会等にも意欲的に取り組んでいる。

また、舞台のみならずテレビ放送にも活躍している。

1989年度、91年度日本音楽コンクール審査員。二期会会員。東京音楽大学助教授。

### ●テノール 島津 勲



武蔵野音楽大学声楽科卒業、同専攻科修了。1976～78年まで、ウィーン国立音楽大学に留学、リート・オラトリオ（ドイツ歌曲・宗教音楽）科に在籍し、最優秀の成績で卒業。留学中発声をA. コロー、リート、オラトリオをE. ポール、R. ショルム各氏に師事。日本においては川村英司氏に師事している。1978年第一回帰国リサイタルを恩師R. ショルム先生の伴奏で開催、以来、毎年ドイツ歌曲を中心にリサイタルを開催、2003年は23回目を10月1日に市川市文化会館で（伴奏ローベルト・ヒラー）予定している。

現在、日出学園に勤務する傍ら、東京、千葉を中心に数多くのコンサートやオペラに出演、また、合唱団との関わりも多く、指揮者、審査員としても活躍している。

日本H・ヴォルフ協会同人、東京ドイツリート研究会会員、千葉県民合唱指導者、浦安混声合唱団及び市川市民合唱団指揮者。カルペ・ディエム主宰。



### ●バリトン 藪西正道

東京芸術大学卒、及び同大学院修士課程終了。イタリアに留学。イタリア・テルニ国際声楽コンクール優勝。フィレンツェ歌劇場新人オーディション第2位。高橋大海、高折統、中山第一、L・グアリーニ、A・プロッチィー、U・ガルディーニ各氏に師事。

国内においてはオペラ「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロールをはじめ、「椿姫」のジェルモン、「蝶々婦人」のシャープレス、「ボエーム」のマルチェッロ、「シモン・ボッカネグラ」のパオロ、「愛の妙薬」のドゥルカマーラ、「夕鶴」の運ず、また1997年二期会公演の「フィガロの結婚」のフィガロ、そして1989年日生劇場での「セヴィリヤの理髪師」のフィガロ、「奥様女中」のウヴェルト等と好評を博す。2000年東フィル「はるかなる響き」日本初演出演。新国立劇場「リゴレット」出演。

二期会会員、平成七年度文化庁インターンシップ研修生、日本演奏連盟会員、日本声楽アカデミー会員、東京芸術大学非常勤講師、聖徳大学講師。



### ●チェンバロ 渡辺玲子

桐朋学園大学音楽部古楽器科チェンバロ専攻卒業。チェンバロを故、鍋島元子、鈴木雅明氏に師事する。

卒業後、アンサンブルを中心に活動を行う。アンサンブル“雲水”メンバー。アンサンブル“雲水”の活動では、都内の銭湯において「殿上の音楽／古楽 in 銭湯」をシリーズで行うなど、聴衆と一体感の持てる演奏会を目指している。

東京古典楽器センターギタルラ社及び木下ミュージックスクール、チェンバロ講師。パハ、カンタータアンサンブルメンバー。



### ●オルガン 鈴木珠美

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。ピアノを故クロイツァー豊子、篠井寧子、村松庸子の各氏に、指揮を高階正光氏に師事。国立音大同調会千葉県支部コンサートにて新人演奏。家永音楽事務所ピアノ・オーディション合格。同事務所主催ジョイントリサイタルにて、スクリャービン、ラフマニノフ、リストの作品を披露、好評を博す。2002年12月の市響「ファミリー交響楽コンサート」では、松岡究氏指揮・市川交響楽団とグリーグ「ピアノ協奏曲イ短調」を共演。R. フリーダー氏（ウィーンフィル首席チェリスト）をはじめ、声楽、器楽の伴奏者としても活躍している。

村上正治先生には、市川混声合唱団・行徳混声合唱団を通じて、学生時より御指導を受ける。



### ●合唱指揮 田中安茂

昭和56年、千葉大学卒業。在学中、千葉大学合唱団の学生指揮者として活躍する。声楽を山本敬氏、宮野モモ子氏、合唱指揮法を栗山文昭氏、指揮法を高階正光氏に師事。市川市立八幡小学校、市川市立南行徳中学校を経て、現在、市川市立塩浜中学校教諭。音楽教育指導全集や教育音楽の執筆をはじめ、音楽研修会講師など、特に合唱教育の分野で活躍している。合唱部指導では、南行徳中学校着任中、NHK全国学校音楽コンクール全国大会において、銀賞、金賞・内閣総理大臣賞受賞。また、全日本合唱コンクールにおいて、3年連続全国大会金賞を受賞。そのOBを中心に平成8年、合唱団P a c e C a n t a r eを結成。平成10年、市川男声合唱団常任指揮者に就任。平成14年度関東合唱コンクールで金賞を受賞。各種コンクールで活躍する傍ら、ヤングコーラスのレコーディングなどでも幅広い活動を行っている。



### ●練習ピアニスト 島内亜津子

1993年桐朋学園大学音楽学部ピアノ科を卒業。その後洗足学園大学付属ピアノ演奏研究所に進み首席で修了。第2回・第4回江東区音楽オーディション合格。1992年、日本クラシック音楽コンクール特別賞。第10回ピアノ教育連盟オーディション奨励賞。1995年米国のチェヒイ・サマーミュージックキャンプにてスカラーシップを取得。1996年ルーマニア国立ディス・リパッティ交響楽団と共演。帰国後東京テレコムセンターアトリウムコンサートの模様がTV放映される。1999年王子ホールにてソロリサイタル開催。2001年市川市文化会館主催「ティータイムコンサート」に出演。同年「春のうたごえ」、「02「市川・第九」にピアノ伴奏で参加。その他江東区民合唱団伴奏者など、ソロ、室内楽奏者として幅広く活躍している。現在、日本女子大学非常勤助手。



# 村上正治記念コンサート出演者 (五十音順)

## 第1部 村上正治作品集 (合唱：市川混声合唱団・行徳混声合唱団)

### ソプラノ

阿部都志子 石黒淳子 岩佐敦子 大坂正美 蚊野侑子 川又京子 桑村和子 小島こずえ  
渋谷祥子 杉浦みゆき 相合谷典子 塚本恵子 辻井茂子 辻本富子 中西双葉 中野かよ  
中村千恵子 橋本晴美 前原敏子 松本孝子 村山典子 山中登茂子 山本佳子 横野セキヤ

### アルト

安藤照子 石井淑子 井戸その 伊藤和子 大塚美千代 金島優子 小松崎幸子  
佐藤和子 白取博子 田辺 育 富山清子 内藤富士子 永野幸子 野瀬富美子  
服部真知子 藤井礼子 見谷静江 横田玲子

### テノール

井関裕義 梶原建男 加藤芳明 桑原磐男 篠田要衛 古畑 功

### バス

石井省二 大辻康允 神田春彦 佐藤正義 高田峰幸 長谷川康啓 樋口 進 平野迪彦

## 第2部 村上正治の愛した曲 メサイア (★パートチーフ)

オーケストラ：市川交響楽団

コンサートミストレス 立田祥子

### 第1バイオリン

小室二美恵 笠松秀臣 鈴木 薫 ★立田祥子 永田 匡 松延裕子 横田富美子 吉野淳子

### 第2バイオリン

★上原剛介 鎌田真貴 小室乃津恵 城山洋一 根守弘和 吉岡一郎

### ヴィオラ

★内田綾美 高田賀夫 奈良林弘子 星 乗昭 渡部玲子

### チェロ

倉沢倫子 瀬川 清 野中能久 ★福原耕二

### コントラバス

小西祐作 石橋俊一

### トランペット

★安藤宣明 酒井崇行 中山秀嗣

オーボエ ファゴット

★深町和良 二村直子 菅原 斉

### ティンパニ

都築 裕

合唱：市川市合唱連盟「ソサイヤ」記念合唱団

(五十音順)  
(★パートリーダー)

団長 酒井玄枝

副団長 長谷川康啓 渡辺 清

事務局 中島広子 高橋 圓

### ソプラノ

安達美千代 阿倍都志子 石黒淳子 井出章子 岩佐敦子 浦辺康子

江原容子 片桐民子 川上かづ子 川又京子 君島由紀子 桑村和子

小久保陽子 小島史江 酒井玄枝 杉浦みゆき 相合谷典子

滝口三津子 瀧本安美 田中昭子 田中園子 田中豊子 塚越寿美子

塚本恵子 辻井茂子 辻本富子 鶴岡房江 中島広子 中西双葉 ★中野かよ

中村安輝子 中村千恵子 西川美佐緒 野田芳永 橋本晴美 原なか子 日暮洋子

福嶋裕子 本間和子 前原敏子 松本孝子 丸山美千代 ★宮村広子 村山典子

山本佳子 横野セキヤ

### アルト

安藤照子 石井淑子 ★伊藤和子 上原絢子 梅本礼子 大島庸子 大貫永子

大野茂子 大野潤子 海宝敏子 金島優子 木村久子 久保曜子 小松崎幸子 齊藤照子

佐藤和子 志保澤輝子 白取博子 関谷真澄 高橋信子 高橋 圓 高橋みどり

田所美佐子 田辺 育 常松公子 対田志野子 富山清子 内藤富士子 長澤瑛子

長瀬千鶴子 永野幸子 南光圭子 野瀬富美子 服部真知子 平山恭子 広瀬貴代子

福嶋有希子 藤井礼子 堀越芳子 見谷静枝 蕨和浩子 宮内保子 ★村内 潮 村瀬恵子

横田玲子

### テノール

井関裕義 稲田道憲 加藤芳明 桑原磐男 小林芳正

児井敏雄 ★篠田要衛 田中保雄 筒井康光 中川利男

芳賀宣仁 東谷義敬 平野 進 藤井謹之介 古畑 功 堀越 徹 水上一彌

★南 隆夫 村瀬 徹 柳沢 寔 六本木茂美 渡辺孝夫

### バス

★浅窪壮一 阿部 晃 石井省二 ★上津孝夫 大滝信義 大辻康充 奥山専逸

神田春彦 小島康延 小島義視 鈴木 淳 関谷保夫 高田峰幸 高橋卓也

田崎幸雄 西山信男 日光俊勝 長谷川康啓 林 伸夫 樋口 進 平野迪彦 古山雄一

牧内篤夫 水戸健史 宮内良司 森川健作 横手弘行 渡辺 清



ヤマザキ

窓にそそぐ柔らかな日差しと爽やかな風。  
お気に入りの曲をかけながら作るサラダ。  
トーストの焼ける芳ばしい香り。  
そんな何でもない時間のやさしさが好き。  
パンは、毎日をやさしく豊かにしてくれるから  
私はおいしいパンと暮らしています。

“おいしいパンと暮らそう。”  
“Enrich your life with delicious bread.”



第4回市川の文化人展 「地域文化に光を灯した二人」  
— 彫刻家・藤野天光\*音楽家・村上正治 —

主催 市川市芸術文化団体協議会 市川市  
協力 阿部光住 一島正真 大串明美 久保田寛人 四宮高世 四宮佑次 藤野光士  
藤野和子 藤野美代子 古川良久 (敬称略、五十音順)  
館林市教育委員会 (財)市川市文化振興財団

デザイン 熊谷博人

監修 吉井道郎

編集 市川市 文化部 文化振興課

〒272-8501 千葉県市川市八幡1-1-1 TEL 047-334-1107

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/bunka/index.html>

発行日 2003年2月